

地域周産期母子医療センター

● スタッフ（2019年10月1日現在）

センター長 西 洋孝

医師数 産科医 8名
小児科医 8名

● 診療科の特色・診療対象疾患

本学の地域周産期母子医療センターは産科病棟33床（うちMFICU6床）、NICU12床、および新生児病棟GCU18床から構成され、令和元年7月より新病院7階に開設されました。当センターは産科医師8名、小児科医師8名が緊密な連携をとりつつ周産期に関わる高度な医療を担っています。また、当院は総合病院であり、糖尿病、甲状腺疾患、血液疾患、心血管疾患および悪性腫瘍など主に内科的疾患合併ハイリスク妊婦に対して、当該内科専門医と協力し高度な周産期医療を提供してきました。そして、産科、小児科および小児外科の連携のもと、ハイリスク妊婦からの出生児、低出生体重児および手術が必要な新生児などに対する集約的な医療体制を整えています。産科診療所やNICUのない病院からのハイリスク妊婦、産科危機的出血または救急処置を要する妊婦の搬送を積極的に受け入れ地域に貢献しています。主な診療対象疾患は、切迫流早産、多胎妊娠、妊娠高血圧症候群、前置胎盤、糖尿病合併妊娠、妊娠糖尿病、甲状腺疾患合併妊娠、喘息合併妊娠、精神疾患合併妊娠、血液疾患合併妊娠、心血管疾患合併妊娠、悪性腫瘍合併妊娠、産後出血などとなります。

● 診療体制と実績

当センターの緊急母体搬送受け入れ数は、平成11年度26件、平成21年度39件、平成30年度55件、令和元年度69件と年々増加しています。また、院外からの新生児搬送受け入れ数は、平成10年度62件、平成20年度79件、平成30年度121件、令和元年度178件と増加傾向にあり、都内の周産期センターの中でも屈指の受入数を誇っています。特記すべきこととしては、患児や搬送元施設の負担を軽減するために可能な限り小児科医師同伴のお迎え搬送を行うことを心掛けており、令和元年度の新生児搬送受け入れのうち医師出動は40%以上の77件にのぼります。令和元年度の産科病棟の延べ入院患者数は5,420名（新入院患者数705名）、MFICUの延べ入院患者数は1,276名（新入院患者数106名）、NICUの延べ入院患者数は4,369名（新入院患者数312名）、GCUの延べ入院患者数は2,692名でした。